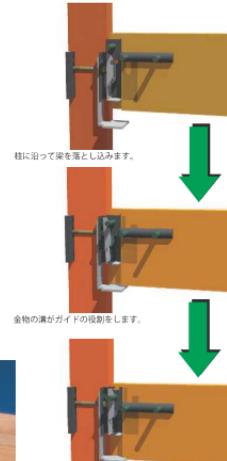


無垢材に対応しています。

現在では、多くの金物工法が存在していますが、そのほとんどは、「集成材」のみに対応しており、無垢材の接合には用いることが出来ませんでした。この金物は、一般的な金物と同等な、ドリフトピンによる接合部分と、梁下端受け金物部分などのパーツから構成されており、荷重をそれぞれのパーツで分担して受ける仕組みになっています。ドリフトピンのみに依存していませんので、幅広い材料強度に対応出来るため無垢材でも安心して使うことが出来ます。



接合されれば、施工は完了です。
後からドリフトピンを打つ必要がありません。
これまでにない、画期的な特徴です。



最後に「カッチン」と鳴れば接続終了です。



【お問い合わせ先】 ヤマガタヤ産業株式会社

企画：江間忠ウッドベース（株）△Emachu
製造：（株）タナカ

カッチン

無垢材対応接合金物



とにかく
施工が早い！
と、大評判です。

カッチンの特徴



1

- 無垢材でも使用できる接合金物です。
杉・桧・米松等の無垢材で使用可！

2

- 在来工法の断面欠損を少なくします。

3

- 施工が簡単です。
“カッチン”と鳴れば施工は終了！

ラッチ金物：ドリフトピンをしっかりと受け止めます。
逆剪断力にも十分対応出来ます。

3つの種類の金物で、
梁成：105～360mm
まで対応しています。

下端金物：塗の下をしっかりと受けます。
ドリフトピンと分担して荷重を支える
ので安心です。

お客様は、これまで煩雑だった金物の取り出しが不要です。

無垢対応接合金物は工場にて取り付け、出荷されます。

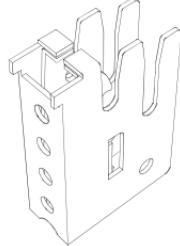
軸組用補助金物は、専別に現場配達されます。

金物一式のセット販売になります。

◇施工上の特徴◇

カッチンは、工場にて取り付けされます。施工は組み合わせて落とし込むだけ。

ドリフトピンの打ち込み、ボルトの締め込み等の作業は一切不要です。現場作業を大幅に短縮します。



開発コンセプト

この金物は、以下のようなコンセプトで開発されました。

プレカット加工（在来工法）の断面欠損を解決したい。

木造軸組在来工法は、その接合を木材の端部等を雌雄形状に加工し、組み込みすることに特徴があります。雌雄形状の加工は、組上げると外見上同一化出来るという特質を持っています。一般的な加工の種類としては、「アリ維ぎ」・「カマ維ぎ」などがあります。これらの加工方法はそのまま機械化され、現在のプレカット加工法が確立されました。

プレカット加工法では上記のように、従来行われてきた大工による在来工法の加工をそのまま機械加工に移行していく、今までの人のによる加工よりも短時間に加工が出来るため、大幅なコスト削減となることを特徴としています。しかし、従来の木組みの欠点であると工学的に指摘されている仕口方法もそのまま持ち込まれています。

特に問題となる仕口は、「大入れ」・「両アリ落とし」です。これらの仕口は、加工時に欠損断面が大きくなるため、その部分の材料強度が落ちてしまいます。

この金物を用いることで材料の欠損を極力減らして接合出来るため、材料強度の低下を大幅に防ぎます。

